

FASHION ZAKKA DESIGN COMPETITION

平成27年11月12日(木)17:00~19:00
MIRROR 5F River Side Cafe Cielo y Rio

◆第1部 表彰式 17:00~17:40(予定)

1. 主催者あいさつ

台東ファッションフェア実行委員会委員長
台東区長

深山 隆義 氏
服部 征夫 氏

2. 来賓ご祝辞

台東区議会副議長
経済産業省 製造産業局 紙業服飾品課 課長

堀越 秀生 氏
渡邊 政嘉 氏

3. 結果発表および表彰

- (1)入賞
- (2)審査員賞
- (3)最優秀賞
- (4)松屋銀座賞
- (5)大賞

5部門 計15点
4点
5部門 計4点
2点
1点

4. 閉会の辞

◆記念写真撮影 17:40~17:55(予定)

◆第2部 懇親会 17:55~19:00(予定)

1. 受賞者コメント

各部門最優秀賞、大賞受賞者

2. ゲスト審査員講評・メッセージ

鴨志田 康人 氏
黒岩 真一 氏
研壁 宣男 氏
林 きょうこ 氏
南馬越 一義 氏

※式終了後、受賞者の方にはレザー素材のプレゼントがございます

FASHION ZAKKA DESIGN COMPETITION CEREMONY PROGRAM

第26回
ザッカデザイン画コンペティション
表彰式プログラム

平成27年11月12日(木)
17:00~19:00
Riverside cafe Cielo y Rio 5F

FASHION ZAKKA DESIGN COMPETITION

Shoes



「Wear in the CITY」
今井 美紅



「Daily Boots」
高橋 秀幸



「skull loafers」
諸田 瑞稀



「チャイナドレス」
CHAO WEN LI



「trench boots Pumps」
本田 みすず

Bag



「Digital Rucksack」
金丸 真子



「Q」
神山 輝



「ポケッバッグ」
魏 ムンナ



「背負うだーバッグ」
吉川 沙希

Hat



「Asymmetric Hat」
恒本 紋子



「Construction (組織)」
後藤 有未



「TRYD」
伊神 央人



「躍動感」
野村 知弘

Belt



「ivyivysuspender」
永淵 光



「Armor Belt」
加島 千紗子



「誰でも孔雀王ベルト」
瀧本 善之



「結〜水引〜」
新庄 玲子

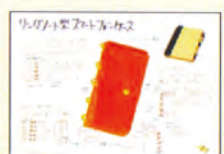
Leather goods



「TSUKI」
近藤 志保



「ピカムシ」
西本 綾華



「リングノート型スマートフォンケース」
美田 実咲



「Boots suspenders」
梅村 南衣

FASHION ZAKKA DESIGN COMPETITION

審査講評



鴨志田 康人
Yasuto Kamoshita

「クラブマンシップ」がファッションの重要なエレメントになってきた時代です。皮革製品はまさに職人さんの手仕事によって製品のクオリティが左右されるものです。私が評価した作品は、革そのものの特徴を生かしたデザインであるかどうか。加えて今の生活にフィットした「機能性」と「気分」が備わっているか。以上の観点で選定しました。

(株)ユニテッドアローズ U/A本部 クリエイティブディレクター
U/A本部クリエイティブディレクターとして、顧客に感動を与えるような素晴らしいクリエイションを探索し続けている。



黒岩 真一
Shimichi Kuroiwa

百貨店で働く私は、消費者の方が実際にお金をはらって購入したいと思うもの、ということの一つの基準に選考させていただいていることに変わりはありません。ターゲットや時代性、そして自分の想いというものを、デザイン画だけで伝えるということは非常に難しいことですが、受賞作品はそれらが感じられたものでした。

(株)松屋 銀座本店バイヤー
2008年(株)松屋入社。ネクタイ売場に配属後、紳士服の仕入業務のアシスタントを経て現在は紳士靴、紳士鞄などの仕入れを担当。



研壁 宣男
Norio Surukabe

ものづくり、デザインの基本は、“ないものを作ること”ではないかと思います。ないものを作るには、まずあるものを知ることが必要です。その点からみると今回の大多数の応募作品がすでに見たことがあるようなものだったような気がしました。突出したデザインクオリティの作品が少なかったように思いますが、受賞したデザインはそういう点で優れていたのだと思います。デザイン画コンペティションとは言え、デザイン画は伝達の方法であって目的ではありません。絵が上手い下手ということよりも、伝えたいことが表現されているかどうかの方が重要です。受賞者の皆さんはこれから実物製作に向けての各製作者さんの職人さんとのコミュニケーションの過程において、いろいろなことを学ばれることと思います。デザイン力は伝達力とも言えます。素晴らしい現物になるよう期待しています。

support surface デザイナー
ROMEO GIGI アシスタントデザイナーを経て、99年よりsupport surface活動開始。06年より東京コレクション参加。07年 株式会社support surface設立。



林 きょうこ
Kyoko Hayashi

メーカーから作ってみたいという言葉が出たデザイン画があった。デザイナー冥利につける言葉だと思う。難しいデザインでも生産が可能だと言えるメーカーが台東区にはたくさんいる。もちろん、今の時代を捉えたファッション性と生産性のバランスも大切だが、熟練のプロたちを唸らせる程の本気のデザイン画の応募がますます増えることを期待します。

バッグデザイナー Coquette(株) 代表取締役
(株)資生堂にて商品開発業務を経験。退社後は、フリーとして企業のバッグ企画・デザインなどを行いながら、エスモードジャパンにてデザイン全般を学ぶ。同校卒業後はバッグ企画、製作会社に入社。2004年6月よりオリジナルバッグ製作(Coquette)を本格始動。年2回のコレクションを発表し、全国のセレクトショップにて展開中。



南馬越 一義
Kazuyoshi Minamimagoe

今回はいつもより増して議論は白熱して、メーカーさんからの問題提起もあり、大変有意義な審査会となった。26回の審査にはコンペティションに革新的な変化をもたらすのではないだろうか。応募作品に関して、僕としてはマーケットやトレンドも意識された洗練されたものも見受けられ、選考しやすかった。靴やバッグ以外の部門からの大賞は今後のコンペティションの応募デザインの幅を広げるなど、良い影響を与えるのではないかな。

(株)ビームス シニアクリエイティブディレクター
1995年ビームス入社。2004年レディース統括部長。2010年3月より現職として活動。